

2015/03/23

湘南藤沢学会「研究助成基金」報告書

都市と離島を結ぶ大学生地域派遣制度の段階的実践

～人口約140人の離島・口永良部島を事例として～

文責：長谷部葉子研究会 口永良部島プロジェクト

環境情報学部3年 遠藤紅実

1：活動報告

■活動日程：大学生地域派遣制度 パイロット版：2015年2月10日～18日

(事前準備期間：2月4日～9日 / 意見交換会・ヒアリング期間：2015年2月20日～3月21日)

※今回、地域派遣制度の導入にむけてしっかりと地域で腰をすえた活動を行うべきだと判断したため、申請時日程より長期間の実践研究となっております。

■場所：鹿児島県屋久島町熊毛郡口永良部島

■地域派遣隊パイロット版 参加者：長谷部葉子研究会口永良部島プロジェクト学生（6名）、春特別地域派遣隊学生（3名）

2：活動目的

当プロジェクト活動は、鹿児島県屋久島町の隣に位置する人口約140人の離島、口永良部島を拠点としており、「子々孫々と続く島社会の創出」というビジョンを掲げながら活動している。その中で、来年度の秋学期以降を目処に実現化していく『大学生地域派遣制度』は、I・Uターン者の減少や、若手の不在、極度の少子高齢化などによって停滞している島の現状を打破し、大学生が大学の単位を取得しながら地域派遣隊として長期間（半年～1年間）地域に滞在し、一住民としての役割を担いながら、島民と協働で離島振興への活動を進めることを目的としている。島民の意志に沿いながら、「子々孫々と持続する島社会の創出」の実現にむけたこの制度を行うために、今回はそのパイロット版を実施した。

今回の活動は、「島がなくなる」という危機に直面している口永良部島において、実践研究としてパイロット版を実施し、大学生地域派遣隊の可能生についてヒアリング・意見交流会を踏まえ検証し、島民との合意形成をとり、来年度以降の当活動への導入的位置づけとして機能させることが目的である。

3：活動の様子

■大学生地域派遣制度 パイロット版

SFCより、3名の学生が春特別地域派遣隊として、「フィールドワーク」科目のカリキュラムの一貫の中で地域派遣制度のパイロット版に参加した。長谷部葉子研究会口永良部島プロジェクトの学生についても、そのマネジメントに携わりながら、当活動の参加者として関わった。具体的には、ガジュツという農作物の収穫、海岸清掃などの活動を通して島民の方々とふれあいながら、島のリアルな生活を体感したり、金岳小中学校の児童および生徒との運動交流会や寺子屋ワークショップ（勉強会 / 好きなものを見つけるお絵描きワークショップ）の企画、運営を行った。

また、毎晩、個々人が事前に提出した研究計画書の概要に沿いながら、その日の出来事やそこから考えた内容、翌日につなげたいことなどを振り返りシートへ記入し、全員で共有することで、学生同士の研究概要、口永良部島という地域について、プロジェクトとしての方向性についての議論の場となった。

